

【施設野菜】

(1) トマト

区分	省令技術名	認定基準	[参考]県慣行基準
有機質資材施用技術	① たい肥等有機質資材施用技術 (使用の目安:2~4t/10a) ② 緑肥作物利用技術 ※ 土壌診断に基づくもの	/	/
化学肥料低減技術	① 局所施肥技術(液肥等) ② 肥効調節型肥料施用技術 ③ 有機質肥料施用技術	化学肥料由来の窒素成分量 夏秋トマト (7月~11月収穫) 19.3kg/10a以下 冬春トマト (12月~6月収穫) 30.1kg/10a以下	夏秋トマト (7月~11月収穫) 27.5kg/10a 冬春トマト (12月~6月収穫) 42.9kg/10a
化学農薬低減技術	① 生物農薬利用技術 ② 対抗植物利用技術 ③ 抵抗性品種栽培・台木利用技術 ④ 天然物質由来農薬利用技術 ⑤ 土壌還元消毒技術 ⑥ 熱利用土壌消毒技術 ⑦ 光利用技術 ⑧ 被覆栽培技術(防虫網資材等) ⑨ フェロモン剤利用技術 ⑩ マルチ栽培技術	化学農薬使用回数(成分数) 夏秋トマト (7月~11月収穫) 32回以下 冬春トマト (12月~6月収穫) 35回以下	夏秋トマト (7月~11月収穫) 45回 冬春トマト (12月~6月収穫) 50回

【その他留意事項】

- 緑肥作物をすき込み後、十分な腐熟期間を確保する。